

総務教育常任委員会視察研修

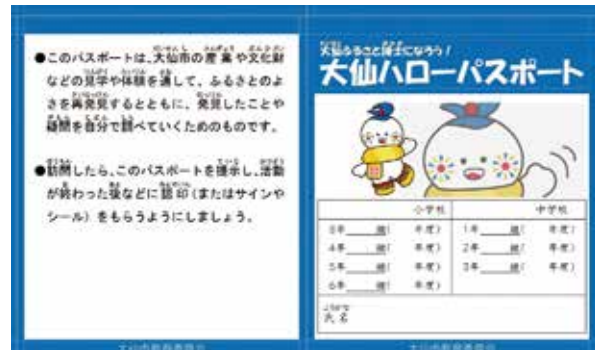
総務教育常任委員会は1月21日、22日に秋田県大仙市と宮城県大河原町において、小中学生の学力向上の取組と不登校児童生徒の支援について調査するため、視察研修を行いました。

秋田県大仙市

～小中学生の学力向上の取組～

大仙市では「大仙教育メソッド」が大きな柱となり、素晴らしいキャリア教育を実践しています。その取組の1つに「大仙ふるさと博士育成」事業があります。農業体験や企業体験等を行うことで、参加・体験・貢献ポイントを獲得できるという事業です。「大仙ハローパスポート」を持参し体験行事等に参加します。ポイントがたまると教育長、市長から表彰を受けます。この事業では、地域行事への参加や企業、施設等での見学や体験を通じてふるさとを愛する心を育て、地域の将来を担う人材の育成を目指しています。

また、令和5年度全国学力・学習状況調査結果では、大仙市の児童生徒の自己肯定感が全国、秋田県の平均を上回っていることが示されています。「大仙教育メソッド」による様々な取組の積み重ねが児童生徒の自己肯定感を高め、学力向上につながっていると考えます。



大仙ハローパスポート①



大仙ハローパスポート②

宮城県大河原町

～不登校児童生徒の支援～

児童生徒の不登校者数は全国で30万人を超えており、現在の学校教育の大きな課題のひとつです。文部科学省は不登校児童生徒に対する施策の1つに「教育支援センターの整備」を掲げています。その教育支援センターである「おおがわら子どもの心のケアハウス（以下ケアハウス）」は、学校に通学することが難しい児童生徒はもとより、学習することに不安を感じて将来不登校に陥る心配のある児童生徒も、自宅以外で安心して学習を進めることができる「居場所」として学習活動と体験活動を主な活動に掲げて活動しています。ケアハウスに通所すると登校扱いになり、学校との連携も図られています。また、駅前という立地も通所の利便性の向上につながっています。

特徴的な取組として紹介されたのが、公用車やデマンドタクシーでの送迎です。決められた時間に公用車を使用し児童生徒をケアハウスまで送迎しています。公用車がいっぱいでもどうして

も乗車できない場合はデマンドタクシーも利用しています。このような取組ができるのは、大河原町が宮城県内の中でも面積が極めて小さく、居住域が半径5 km以内にほぼおさまっているためです。

また、長期休業中の課題への取組も行っています。不登校の児童生徒だけではなく、多くの児童生徒が通所して自主学習しています。ここでは学力向上ではなく、宿題を終わらせることで達成感を得ることを大切にしています。



職員から説明を受ける議員